



幕末土佐の天才絵師 絵金

会期 | 2025年9月10日(水)～11月3日(月・祝)



サントリー美術館(東京・六本木)は、2025年9月10日(水)から11月3日(月・祝)まで「幕末土佐の天才絵師 絵金」を開催いたします。

土佐の絵師・金蔵^{きんぞう}(1812～76)は高知城下で生まれ、幕末から明治初期にかけて数多くの芝居絵屏風をのこし、地元高知では「絵金^{え きん}さん」の愛称で長年親しまれてきました。歌舞伎や浄瑠璃のストーリーを極彩色で絵画化した芝居絵屏風は、同時代の絵画のなかでも一段と異彩を放つものです。絵金の屏風は、今なお夏祭りの間に神社や商店街の軒下に飾られ、提灯や蠟燭の灯りで浮かび上がる画面は、見る者に強い印象を残しています。

1966年に雑誌『太陽』で特集されたことを契機に、絵金は小説・舞台・映画の題材として取り上げられ、1970年前後には東京・大阪の百貨店で展覧会が開催されるなど一時ブームとなりました。高知県立美術館では1996年と2012年に回顧展が開かれていますが、芝居絵屏風の多くが神社や自治会などに分蔵されており、それらをまとめて観られる機会は滅多にありません。

近年、高知県香南市赤岡町に絵金蔵が開設され、香南市野市町には創造広場「アクトランド」(現・アクトミュージアム)の絵金派アートギャラリーがオープンするなど、絵金の画業を再評価し、作品を保存・研究・展示する環境が整ってきました。高知県外で半世紀ぶりとなる本展は、あべのハルカス美術館(2023年)、鳥取県立博物館(2024年)へ巡回し、いよいよ東京での開催です。

サントリー美術館は「生活の中の美」を基本理念としています。「夏祭りに夕立が来たら、屏風より先に提灯を片付けた」と語られるほど、絵金は生活に溶け込みつつ、高知の文化のなかで大切に受け継がれてきました。東京の美術館では初の大規模展となる本展を通じて、絵金の類稀なる個性と魅力をお楽しみください。



伊達競阿国戯場 累 二曲一隻 香南市赤岡町本町二区 【通期展示】

絵金とは

絵金は文化9年(1812)に高知城下・新市町(現・はりまや町)の髪結いの子として誕生したといわれる。「絵金」は「絵師の金蔵さん」の略称・愛称であり、本人が名乗ったことはない。幼少時より画才のあった金蔵は、同じ町内の南画家や土佐藩御用絵師に絵を学んだ。18歳のとき、土佐藩主の息女・徳姫の駕籠かきの名目で江戸にのぼり、駿河台狩野派の土佐藩御用絵師・前村洞和の下で3年間修業する。帰郷後、土佐藩家老の御用絵師となった金蔵は、藩医であった林姓を買い取り、林洞意を名乗った。町人からの大出世だったが、33歳の頃、林姓と御用絵師の身分をはく奪され、城下を追放されてしまう。贋作事件に巻き込まれたという伝えもあるが、定かではない。以降、町医者ひろせの弘瀬姓を買い取り、弘瀬柳栄りゅうえいとなり、後には雀七じゃくしちと改める。金蔵と弟子筋の手による芝居絵屏風や絵馬提灯は多数残るが、中年以降、いつどこで制作していたのか、確かな史料はない。赤岡(現・香南市赤岡町)の叔母の家に一時滞在していたと伝えられ、赤岡の北に位置する須留田八幡宮するだはちまんぐうの神祭に奉納された芝居絵屏風が代表作である。墓碑銘によると金蔵から絵の手ほどきを受けた者は数百人いたとされる。明治9年(1876)、数え65歳で亡くなった。

展示構成

※展覧会会場では、章と作品の順番が前後する場合があります。また、展示内容は予告なく変更される場合があります。

第1章 絵金の芝居絵屏風



花衣いろは縁起 鷲の段 二曲一隻
香南市赤岡町本町二区 【通期展示】



浮世柄比翼稲妻 鈴ヶ森 二曲一隻
香南市赤岡町本町一区 【通期展示】

2013年の報告書（絵金蔵運営委員会）によると、約200点の芝居絵屏風類が高知県に現存し、その多くが二曲一隻の形態です。一部が美術館・博物館に収蔵されている他は、神社や公民館、自治会などによって管理され、神社の夏祭りで使用されてきました。絵金の没後も絵金の芝居絵文化は継承され、昭和に入ってから新たな屏風が作られていたと言われています。そのため、残された屏風の画風には、絵金風ながらも弟子や孫弟子たちの様々な個性が見られるものもあります。

本章では、絵金の基準作として名高い、香南市赤岡町の4つの地区が所蔵（絵金蔵所管）する芝居絵屏風を展示します。これらの屏風は、毎年7月に行われる須留田八幡宮神祭および土佐赤岡絵金祭りでは商店街の軒下に飾られるものです。

また、御用絵師であった絵金は、芝居絵屏風以外の作例も多く残しました。風俗・歴史人物・芝居の物語などを表した掛軸や絵巻、安政元年（1854）に土佐を襲った大震災を描く画帖などを通じて、その多様な画力を紹介します。

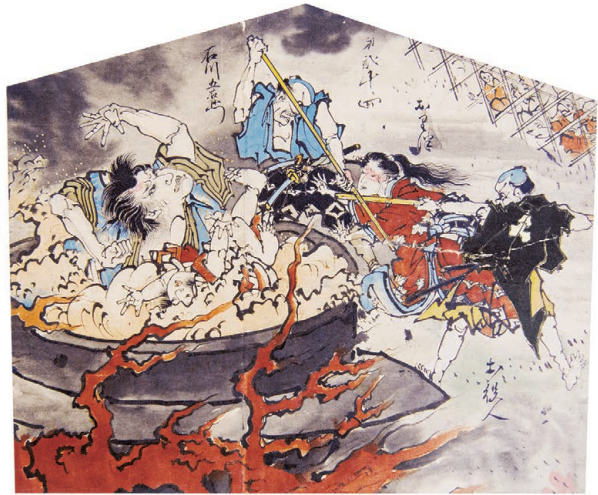
主な出品作品

うきよづかひよくのいなずま ・浮世柄比翼稲妻	鈴ヶ森	二曲一隻	香南市赤岡町本町一区
はなごろも えんぎ ・花衣いろは縁起	鷲の段	二曲一隻	香南市赤岡町本町二区
だてくらべおくにかぶき ・伊達競阿国戯場	累	二曲一隻	香南市赤岡町本町二区
めいぼくせんだいはぎ ごてん ・伽羅先代萩 御殿		二曲一隻	香南市赤岡町本町二区
とさねんじゅうふうぞく えまき ・土佐年中風俗絵巻		一卷	個人蔵（高知県立美術館寄託）

第2章 高知の夏祭り



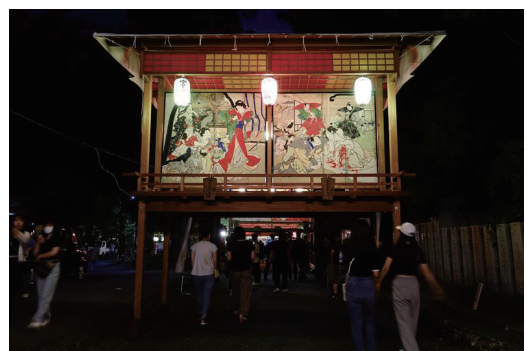
釜淵双級巴(絵馬提灯) 第十二 二十四点のうち
アクトミュージアム 【通期展示】



釜淵双級巴(絵馬提灯) 第二十四 二十四点のうち
アクトミュージアム 【通期展示】

絵金の芝居絵屏風を神社の夏祭りに飾る風習がいつ始まったか判然としませんが、安政5年(1858)の年記がある保存箱が確認され、幕末頃から大いに流行していたようです。現在、約10か所の神社で、屏風を絵馬台(台提灯)に飾る昔ながらの夏祭りが行われていますが、氏子の高齢化や屏風の劣化などの理由により、その数は年々減少しています。

高知市朝倉の朝倉神社では、夏祭りの際に山門型の絵馬台が6台組み上げられ、拝殿に向かって整列する様子は非常に壮観です。香美市土佐山田町の八王子宮には、大型の「手長足長絵馬台」があり、近年では2019年の夏の大祭で披露されました。高知市春野町芳原の愛宕神社の夏祭りでは2024年に絵馬台が数年ぶりに組まれました。本章では、東京で高知の夏祭りの雰囲気味わえるよう、これらの神社の絵馬台を展示室に再現するとともに、高知の夏祭りのもうひとつの風物である絵馬提灯を展示します。行燈絵とも呼ばれる絵馬提灯は、毎年新調されたため、現存作は非常に少なく、「釜淵双級巴」は、近年発見された作品です。



(参考) 朝倉神社 夏祭り (撮影:2022年7月24日)

主な出品作品

- ・仮名手本忠臣蔵 判官切腹
- ・船弁慶
- ・図太平記実録代忠臣蔵(絵馬提灯)
- ・釜淵双級巴(絵馬提灯)

- 二曲一隻 高知市朝倉 朝倉宮の前奥咄内町内会
- 二曲一隻 高知市朝倉 倉・前田町内会
- 十二点 高知県立美術館
- 二十四点 アクトミュージアム

第3章 絵金と周辺の絵師たち



義経千本桜 加賀見山旧錦絵(横幟)〔部分〕 河田小龍 一張
安政4年(1857) 高知県立歴史民俗資料館 【展示期間:9/10～10/6】

本章では、屏風や絵巻、軸物以外の絵金の作例と、絵金と深い関わりのあった絵師の作品を紹介します。

御用絵師、町絵師の各時期に、絵金に師事した弟子は数多く、絵金夫妻の墓(高知市^{あさの}薊野)の碑文には、「門人や業を受けた者、数百人が其の筆法を世に行う」(原文は漢文)とあります。その一人河田小龍^{かわ だしょうりゅう}は、幕末土佐きっての知識人で、アメリカから帰国したジョン万次郎から聞き書きした漂流記『漂異紀畧』^{ひょういきりやく}を土佐藩主に献上したことで知られ、坂本龍馬とも交流がありました。また、野口左巖^{のぐちさがん}は、現在の香南市野市町の紺屋で、本名が金蔵であったため「野市^{えきん}絵金」と呼ばれました。

土佐では男の子の初節句に、武者絵や芝居絵の描かれた横断幕のような幟を門前に飾る習慣がありました。その多くが紙製で、ほとんど現存していません。「近江源氏先陣館^{おうみげん じせんじんやかた} 盛綱陣屋^{もりつなじんや}」は、俳句とともに絵金の号「友竹^{ゆうちく}」が書かれており、絵金の基準作となる貴重な作品です。

主な出品作品

- ・菅原伝授手習鑑^{すがわらでんじゆ てらいかがみ} 寺子屋^{てらこや}
- ・妹背山婦女庭訓^{いも せやまおんなていしん} 御殿^{ごてん}

一枚 個人蔵

野口左巖 二曲一隻
深淵神社(高知県立歴史民俗資料館寄託)

- ・近江源氏先陣館 盛綱陣屋(横幟)

一張 原利夫(香南市)

- ・義経千本桜^{よしつねせんぼんざくら} 加賀見山旧錦絵^{かがみ やまきやうのにしきえ}(横幟)

河田小龍 一張 安政4年(1857)
高知県立歴史民俗資料館

幕末土佐の天才絵師 絵金

会 期	2025年9月10日(水)～11月3日(月・祝) ※作品保護のため、会期中展示替を行います。
主 催	サントリー美術館、読売新聞社
協 賛	三井不動産、鹿島建設、サントリーホールディングス
後 援	高知県、J-WAVE、TOKYO MX
協 力	松竹
会 場	サントリー美術館 東京都港区赤坂9-7-4 東京ミッドタウン ガレリア3階 アクセス(東京ミッドタウン[六本木]まで) 都営地下鉄大江戸線六本木駅出口8より直結 東京メトロ日比谷線六本木駅より地下通路にて直結 東京メトロ千代田線乃木坂駅出口3より徒歩約3分

基本情報

開館時間	10時～18時 ※金曜日および11月1日(土)・2日(日)は20時まで、9月26日(金)・27日(土)は六本木アートナイトのため21時まで開館 ※いずれも入館は閉館の30分前まで
休 館 日	火曜日(9月23日、10月28日は18時まで開館)
入 館 料	・当日券：一般1,800円、大学生1,200円、高校生1,000円 ・前売券：一般1,600円、大学生1,000円、高校生800円 ※中学生以下無料 ※サントリー美術館受付、サントリー美術館公式オンラインチケット、ローソンチケット、セブンチケットにて取扱 ※前売券の販売は7月2日(水)から9月9日(火)まで ※サントリー美術館受付での販売は開館日のみ
割 引	・あとろ割：国立新美術館、森美術館の企画展チケット提示で100円割引 ・団体割引：20名様以上の団体は100円割引 ※割引適用は一種類まで(他の割引との併用不可)

イベント情報

| 展覧会関連プログラム |

講演会 土佐の夏祭りを彩る「絵金」

講師：横田 恵 氏 (アクトミュージアム学芸員)

日時：10月5日(日) 14時～15時30分

会場：6階ホール

定員：95名

料金：700円(別途要入館料)

当館ウェブサイトよりお申込みください。応募者多数の場合は抽選。

| 呈茶席(お抹茶と季節のお菓子) |

日時：9月11日(木)・25日(木)、10月9日(木)・23日(木)・30日(木)

12時、13時、14時、15時にお点前を実施(お点前の時間以外は入室不可)

会場：6階茶室「玄鳥庵」

定員：各回12名／1日48名

呈茶券：1,400円(別途要入館料)

※13時、14時、15時の呈茶券はサントリー美術館公式オンラインチケットにて前売券販売

※12時回およびオンライン販売分に残席がある場合は、当日10時よりサントリー美術館受付にて販売
(先着順、お一人様2枚まで。混雑時は9時半以降に整理券配布)

詳細は当館ウェブサイトをご覧ください。追加のプログラムを開催する場合もウェブサイトでご案内します。

お問い合わせ

一般お問い合わせ

TEL：03-3479-8600

美術館ウェブサイト

<https://www.suntory.co.jp/sma/>

広報画像のお申込み

<https://www.suntory.com/sma/press/exhibition/v94r7P/upload/ekin0612.pdf>

報道関係のお問合せ

「幕末土佐の天才絵師 絵金」広報事務局(株式会社TMオフィス内)

担当：馬場・永井・西坂

TEL：050-1807-2919 E-mail：ekin@tm-office.co.jp

美術館への取材に関する お問い合わせ

サントリー美術館 〔学芸〕内田 〔広報〕光田

E-mail：sma-pr@suntory.co.jp

以 上